

令和2年度一般会計決算を認定

歳入総額 **227億7,382万円**
(前年度比 33.2%増)

歳出総額 **218億7,605万円**
(前年度比 33.4%増)

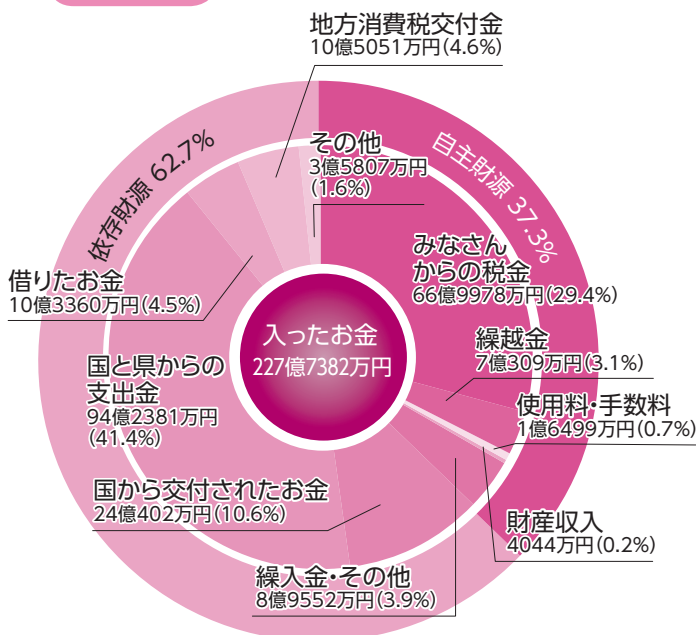
形式収支額
翌年度へ繰り越すべき財源
実質収支額(決算剰余金)

8億9,777万円
954万円
8億8,823万円

令和2年度一般会計の決算状況

9月定例会

歳入

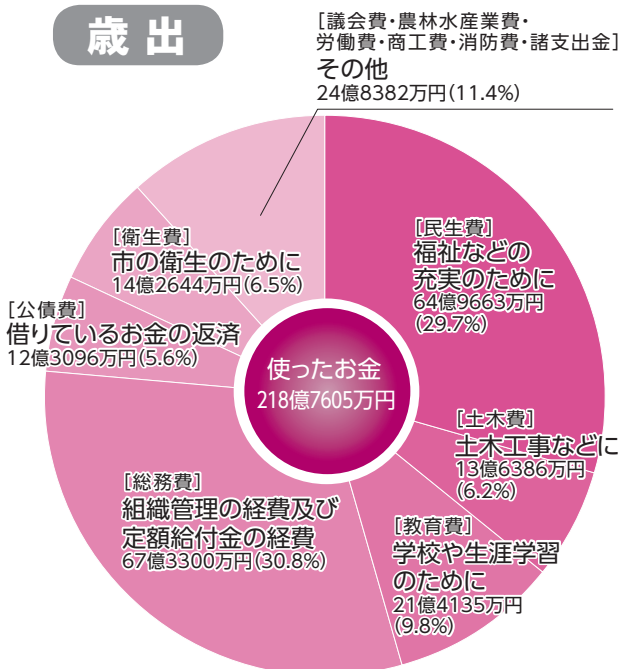


新型コロナウイルス関連で大幅増

歳入では、新型コロナウイルス対策のため国庫支出金が83億5355万円、対前年度費59億5270万円、247.9%の増となっています。この中には、

令和3年9月定例会は、9月1日から9月29日までの29日間の会期で開かれました。市長提出議案は、水道事業会計未処分利益剰余金の処分1件、令和2年度一般会計決算の認定・特別会計決算の認定8件、条例改正案4件、市道路線認定・変更2件、令和3年度一般会計・特別会計補正予算7件、人事案件1件の合計23件でした。また、議員提出議案は1件でした。審議の結果、いずれも原案の通り認定、可決、同意されました。一般質問は、13人の議員が市政をたどりました。

歳出



特別定額給付金事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が含まれています。歳出で増額要因となっているのは、次とおりです。総務費では、市民一人に10万円を給付

する特別定額給付金。民生費では、子育て世帯への臨時特別給付金。衛生費では、水道料金負担軽減補助金。商工費では、キヤッシュレス決済負担金。教育費では、GIGAスクール関連のタブレット端末代があります。

一般会計・特別会計の決算状況

一般会計及び特別会計決算では、次ページ下欄にあるように歳入決算額から歳出決算額を引き、翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質収支額がすべて黒字でした。

**令和3年9月定例議会
本会議議案質疑内容**

(議案第54号)

**令和2年度幸手市介護
保険特別会計歳入歳出
決算の認定について**

質疑

3か年にわたる高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画の最後の決算を終え、第7期の総括を伺います。

答弁

重点施策に絞り総括しますと、1点目、介護予防の推進として、身近な地域で介護予防教室や出前講座等を実施しました。2点目、在宅生活の充実として、生活支援、介護予防サービスの体制整備に向けて生活支援コーディネーターを配置しました。3点目、認知症対策の推進として、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員による、相談支援体制の充実を図りました。最後に、医療・介護のネットワークづくりとして、幸手市、杉戸町

及び北葛北部医師会との協働により、医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネージャーなどの多職種による連携体制を整備しました。
次に、第7期計画期間で見込んだ保険給付費と地域支援事業費の総合計画に対する決算状況については、3年間を通しては、おおむね計画どおりに進んだものと考えています。

質疑

地域包括支援センターは、予算から決算から事業計画から評価から、全部介護保険運営協議会が携わると思いますが、どうなのかを伺います。

答弁

地域包括支援センターの予算等についても、介護保険運営協議会において議題に挙げていますので、こちらについては、地域包括支援センター運営協議会の役割を果たしていると考えています。

(議案第56号)

**令和2年度幸手市幸手駅西口
土地区画整理事業特別会計
歳入歳出決算の認定について**

質疑

令和2年度幸手駅西口土地区画整理事業繰越明許費の繰越額6293万3千円に含まれる、物件移転補償費862万6千円の社会資本整備総合交付金の充当について伺います。
また、幸手駅西口土地区画整理事業の今後の見通しについても市長にお伺いします。

答弁

物件移転補償額862万6千円については、社会資本整備総合交付金の充当はございません。
幸手駅西口土地区画整理事業の今後の見通しは、現在は一部のみの供用となっている都市計画道路西口停車場線、都市計画道路杉戸・幸手・栗橋線及び駅前周辺の整備を優先して行っております。

人事案件

教育委員会委員

古沢 万友実 氏

を任命することに同意しました。

令和2年度一般会計・特別会計の決算状況

(単位：円)

| 会計名 | 歳入決算額 | 歳出決算額 | 翌年度へ繰り越すべき財源 | 実質収支額 |
|-------------------|----------------|----------------|--------------|-------------|
| 一般会計 | 22,773,822,435 | 21,876,051,564 | 9,543,000 | 888,227,871 |
| 国民健康保険特別会計 | 5,774,255,762 | 5,631,217,388 | 0 | 143,038,374 |
| 後期高齢者医療特別会計 | 678,783,616 | 673,535,818 | 0 | 5,247,798 |
| 介護保険特別会計 | 3,950,118,198 | 3,773,495,006 | 0 | 176,623,192 |
| 農業集落排水事業特別会計 | 39,471,555 | 36,542,768 | 0 | 2,928,787 |
| 幸手駅西口土地区画整理事業特別会計 | 481,342,979 | 381,271,430 | 62,933,000 | 37,138,549 |
| 水道事業会計(収益的収支) | 1,033,914,871 | 986,767,065 | 0 | 47,147,806 |
| 公共下水道事業会計(収益的収支) | 697,321,701 | 677,382,460 | 0 | 19,939,241 |

※水道事業会計及び公共下水道事業会計は税抜きです。

(議案第51号)
令和2年度幸手市一般会計
歳入歳出決算の認定について

賛成討論

四本 奈緒美

令和2年度幸手市一般会計歳入歳出決算において実施された施策を見ますと、総務分野においては、国の新型コロナウイルス感染症対策の特別定額給付金、市民全員への一律10万円給付において、迅速に市民の手に届けられたことを評価します。

民生分野においては、新生児特別定額給付金として10万円を支給したことは、コロナ禍での出産を迎えた家族に大変喜ばれ、評価します。

商工分野においては、1人あたり2千円のハッピーエール応援券発行事業は、コロナ禍で苦勞をする市民、事業所も支援をすることが出来、地域経済の活性化に繋がったことを評価します。

消防分野においては、段ボールベッドや検温カメラ等の備品を整え、液体ミルクを備蓄したことは、市民の安心安全に直に繋がるものであると評価します。

教育分野においては、新たな時代への学習の為に、児童・生徒に1人1台のタブレット端末を整備した事により、コロナ禍での学びを確保・継続することが出来たことを評価します。依って、公明党は賛成討論とします。

賛成討論

武藤 壽男

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による死亡者も発生され、市主催の行事や事業も中止になるなど、地域経済も市民生活も大きく変容しました。

令和2年度幸手市一般会計歳入歳出決算は、歳入決算額22億7338万2435円、歳出決算額218億7605万1564円となりました。

歳入は、自主財源の主たる財源である市税は、対前年0.7%減の66億9977万5422円、国庫支出金は、新型コロナウイルス感染症対策補助金など83億5355万3536円と増額し、依存財源は142億7000万9847円となり、多額の依存財源で賄われました。

歳出は、民生費としては64億9663万4056円、新型コロナウイルス感染症対策費など

補助費等の決算額は77億3556万8千円でした。

地方創生臨時交付金等の活用を要望してきたが、ハッピーエール応援券発行事業等に、総額6億9673万8262円の事業を実施し、市民への生活支援、経済支援、教育支援として成果があったと評価します。

投資的経費は、10億4499万6千円、維持補修費は1億412万6千円程の僅かの充当でした。

決算時点財政状況は、143億3950万2千円の市債残高、財政調整基金など基金残高は、8億7668万4千円となり、緊急時に備える基金として危機的であり厳しい財政運営となりました。

(議案第56号)
令和2年度幸手市幸手駅西口
土地区画整理事業特別会計
歳入歳出決算の認定について

反対討論

大平 泰二

事業認可後から令和2年度までの事業費の合計及び財源内訳について市は、土地区画整理事

業費31億4803万円、人件費約5億1700万円、公有財産購入費5億3593万円を合計した事業費が約42億円と市は報告しました。

当初市が公表した重点プロジェクト28の試算では一般財源が13億7382万3千円でしたが実際に多かった予算は19億3341万円となり5億5959万円予算が多かったこととなります。

駅西口事業の最終年度については令和18年3月31日までとし、総事業費が75億7900万円。令和2年度までの事業費31億4803万5千円を差し引いた約44億3100万円の事業費がかかる見込みとの答弁でしたが、今までの計画より一般財源を5億5959万円も多く使っていることを見た場合、総事業費が75億7900万円で済まない事は明らかです。

総工事費・工事期間・経済的効果、全て不明の駅西口土地区画整理事業、今後は久喜新道と御成り街道を繋ぐ道路、駅前の停車場線を真っ直ぐにする事業にしほり、後は全て区切りのいいところで中止すべきです。